活動名　金沢市障害者スポーツ振興
～障害者スポーツの支援者と理解者を増やすために～
団体名　井上明浩ゼミナール

はじめに（背景・目的・目標）

「障害者スポーツの支援者と理解者を増やすために」の推進のために、以下の２つの取り組みを行った。

(1)見落とされがちな就学前の障害のある子どものスポーツニーズの調査

スポーツ実践を継続的に実施し子どもへの直接的な効果とともに、比較的若い世代にある保護者のニーズを明らかにし、スポーツ振興への根拠とする。

(2)地域スポーツイベントへの障害者の参加に関するニーズ、課題の調査

「金沢マラソン 2018」ではゴールエリアに障害ランナー用の多目的スペースを設置・運営し、障害ランナーの実態、ニーズ調査を実施。障害がある人も参加しやすい当地域のスポーツイベントとなるよう環境整備への貢献を目指す。

活動内容

障害のある就学前の子どものスポーツ実践を継続的に実施し（図表 1)、子どもへの直接的な効果とともに、一緒に参加する保護者等にスポーツに関する意向を確認した。子どもの障害特性や発達年齢に合わせた運動能力、獲得課題を検討し有意義な取り組みになるよう工夫した。

（2018 年 7 月～12 月の土曜日全 5 回）

そして成果発表の一つとして、連携先である金沢市が一般市民向けに開催した「2018 パラスポーツを体験しよう!!」イベントの中で活動成果を発表した（図表１)。子ども本人のスポーツ効果に加え、保護者や施設職員等に子どもの可能性をあらためて示せたと考える。併せて、保護者は継続的な実践を望んでおり、同時に、障害がある子どもを対象とする福祉サービス事業所のスタッフも取り組みを評価し、活動を継続することへの期待があることを確認した。

一方、障害があったとしても子どもの成長、課題の修得は予想以上に早く、運動内容の十分な準備が求められた。また早い時期からの身体運動は効果的であるが、その機会は地域社会では十分でないという課題も明らかとなった。

（図表 1）2018 パラスポーツを体験しよう!!

「金沢マラソン 2018」障害ランナー用多目的スペース設置・運営とニーズ調査

概要：ゴールエリア内に多目的スペースを設置（図表 2)。テント内は、小さく区分けした更衣用個室と休憩エリアを設け、自由に使えるストレッチ用具も設置した。ゼッケン番号により、また、多目的スペース、および金沢マラソン全体の評価を得るために、障害ランナー（一部伴走者）にアンケート調査を実施した。調査票は、前日、前々日の金沢駅での受付会場で、直接障害ランナーと伴走者に調査趣旨を説明し、了解を得たうえで配布した。

成果、結果の考察

調査結果（回答者の属性）：

今大会の全ランナーは約 1 万 3 千人で、そのうち障害ランナーの受付は 105 人、伴走者は 13 人で、実際に配布したのは 107 人、回答・記入はレース後とし、郵送法で回収した（回収 52、回収率 48.6%)。金沢マラソンには、障害種別、年齢、地域に関係なく、幅広く障害ランナーが参加している（図表 2)。

障害種別		年齢		居住地	
聴覚言語	20	20 代	6	石川県内	20
内部障害	8	30 代	12	関東甲信	13
知的障害	8	40 代	10	東海北陸	6
肢体不自由	4	50 代	13	近畿	9
視覚障害	3	60 代	6	中国四国	1
精神障害	3	70 代	2		
伴走者その他	3				

（多目的スペースの評価）：

多目的スペースを利用した障害ランナー（伴走者含む）の評価は、5段階評価で4.41と高かった。どの障害（肢体不自由、聴覚言語、視覚、内部、知的）であっても高い傾向がみられた。

また、自由記述では次の評価があった

（自由記述コメントの主な内容）

- 今回の多目的スペース（ゴール地点）はすごくありがたかった。
- ゴール地点の多目的スペースは大変ありがたかった。申し訳ないぐらいありがたい。
- 着替えに時間がかかるので多目的スペースは本当にありがたかったです。
- 多目的スペースを利用したが、イスがあり、誘導もしていただき手厚い対応で感激しました。申し訳ないぐらいです。
- フルマラソンは2回目ですが、障害に対する配慮があったのでよかったと思います。特に多目的スペースは助かりました。

まず、障害のある就学前の子どものスポーツ実践に関しては、申請時に成果目標として掲げた**「障害のある子どもと、ない子どもが一緒に参加するスポーツの機会を設け、延べ50人以上の参加を目指す。」は達成できた**ものと考える。加えて、障害があったとしても子どもの成長、課題の修得は予想以上で、継続的なスポーツの意義と、可能性をあらためて実感することができた。

また、金沢マラソンに関しては、当初目標の「金沢マラソン2018に参加する障害ランナー（伴走者含め約100名）に対するアンケート調査を行なう。**多目的スペース（仮称）も含め、今後の大会運営向上に貢献する活動を行なう。」をほぼ遂行できた**と考える。昨年の取り組みに基づき試行した多目的スペースではあったが、概ね高い評価を得た。また、この取り組みは金沢市スポーツ振興課、および大会実行委員会との連携により実現している。本テーマに対する大学と地域連携の一つの形となったと考える。

一方、多目的スペースの利用希望が多く、待ち、あるいは混雑で利用できないという場面があった。さらに、コース上にある給水・給食ステーションが一部障害ランナーには利用しにくい状況であったということもアンケートの回答から明らかとなった。今回の取り組み結果に基づき、今後の対応を考えていく必要がある。

（図表2）多目的スペース：障害ランナー対応

今後の課題、展望

前述のとおり、取り組み対象である障害児者、保護者、関係者からは一定の評価を得ることができた。実践を継続するとともに、連携先である金沢市スポーツ振興課、および金沢マラソン大会実行委員会とともに当地域の障害者スポーツの普及・振興に取り組んでいく。また、2020年の東京大会を意識しつつ、障害児・者のスポーツをふくめた当地域における「レガシー」のあり方を検討していく。